

巻 頭 言**岡山大学農学部学術報告 100巻の発刊に際して**

岡山大学 農学部長 神崎 浩



岡山大学農学部は、戦後間もない1949年に岡山大学創立と同時に設立され、今年で62年の歴史があります。岡山大学農学部学術報告は、その設立から間もない1952年に創刊され、本年2011年に100巻の節目の発行を迎えることになりました。

「農学」とは、人類の生存に不可欠な衣・食・住に必要な食料や資材を、自然の力を使って生産する産業の基盤となる学問です。戦後間もなくは、食料の増産に向けた農業生産性向上が「農学」の使命でした。その後、60年あまりの間に「農学」を取り巻く環境は、大きく変化し、農学の守備範囲を広げてきました。21世紀の現在、人類が直面している、食料問題だけでなく環境保全や資源確保の問題を解決するための学問が農学と言えます。

岡山は、北には「豊かな水と緑」を育む中国山地、南には「穏やかな気候」を演出する瀬戸内海を擁しており、恵まれた自然立地のなかに、多様で生産性の高い農業が発達してきました。一方、この地方は藩学振興の歴史にみられるように、古くから学問研究の旺盛な土地柄としても広く知られております。岡山大学農学部は、このように恵まれた自然と伝統を背景に、『人類と地球を守る学問』の府としての使命を自覚しつつ、研究の高度化と教育の充実のために全構成員が一丸となって取組んで来ています。

その研究成果の一部の発信として岡山大学農学部学術報告を、1994年までは年に2巻、1995年以降は年に1巻のペースで毎年欠かすことなく発刊してきました。その掲載論文数は、研究論文822本、総説19本、総合論文19本、研究紹介21本にもなります。いずれの研究成果も、その時代の「農学」の使命に答えたものであります。

また、84巻（1995年2月発行）からは1年間の学術論文等について「公表学術論文等リスト」も掲載するようになり、農学部教員の研究アクティビティを広く世の中に発信してきました。さらに全ての巻について論文のPDFファイルは現在、岡山大学附属図書館のホームページで岡山大学学術成果リポジトリ (<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/>) にとりまとめられ、世界中に広く公開されています。（今年度からは、「公表学術論文等リスト」は、岡山大学農学部のホームページでも発信を行います。）

これからも、「農学」を取り巻く環境は変化し、その使命も多様化していくと思われまます。それに遅れることなく、岡山大学農学部の教職員は「農学」の使命に答えるべく教育研究を続け、その研究

成果を岡山大学農学部学術報告に掲載していく所存です。

岡山大学農学部学術報告の発展のためには農学部外の方々からの貴重な意見が不可欠です。ぜひさまざまな視点からご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

2011年2月1日